

平成 30 年 4 月 26 日  
日本原燃株式会社

## 原子燃料サイクル事業の現在の状況について

### 1. 共通事項

#### (1) 再処理事業変更許可申請書、廃棄物管理事業変更許可申請書及び核燃料物質加工事業変更許可申請書の一部補正

平成 30 年 4 月 16 日、再処理事業変更許可申請書、廃棄物管理事業変更許可申請書及び核燃料物質加工事業変更許可申請書の一部補正について、原子力規制委員会に提出した。

##### 【主な補正内容】

##### a. 再処理事業

- (a) 重大事故等における対策の追加
- (b) 放出管理目標値の変更
- (c) 事業計画書の変更

##### b. 高レベル放射性廃棄物管理事業

- (a) 内部火災に関する記載の充実
- (b) ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒の補強
- (c) 工事計画及び事業計画書の変更

##### c. MOX 燃料加工事業

- (a) 火災に関する対策の見直し
- (b) 事業計画書の変更

#### (2) 事業者対応方針に基づく改善活動の現場確認状況

平成 29 年度第 2 回保安検査等で確認された「再処理施設 非常用電源建屋非常用ディーゼル発電機 B 補機室への雨水浸入事象」などの問題に対し、昨年 9 月 6 日の原子力規制委員会において指摘を受けた。

この問題を最優先課題として受け止め「事業者対応方針」を策定し、全社を挙げて改善活動を進めている。

なお、「事業者対応方針」の中の各事業部で実施している現場確認(全設備の把握及び健全性確認)状況の進捗については以下のとおり。

##### a. 再処理工場

- (a) 安全上重要な設備を含む部屋・エリア(屋内 782 部屋、屋外 77 エリア)については、1 月までに確認を完了。
- (b) 安全上重要な設備以外の部屋・エリアについては、2 月 7 日までに屋内(3016 部屋)の確認を完了、屋外については、4 月 15 日現在で約 4%のエリアの確認を行っている。(屋外対象エリア総数:934 エリア)

##### b. ウラン濃縮工場

- (a) ウラン濃縮工場は、1 月 31 日までに屋内(143 エリア)の確認を完了、屋外については、4 月 13 日現在で約 92%のエリアの確認を行っている。(屋外対象エリア総数:36 エリア)

##### c. 埋設施設

- (a) 埋設施設は 1 月 29 日までに屋内(93 エリア)の確認を完了、屋外については、4 月 19 日までに確認を完了。(屋外対象エリア総数:650 エリア)

これまでの現場確認の結果、安全上重要な設備の機能に影響をおよぼすような不具合はなく、設備の健全性は確保されていることを確認している。

## 2. ウラン濃縮事業

### (1) 運転状況

生産運転停止中

## 3. 低レベル放射性廃棄物埋設事業

### (1) 低レベル放射性廃棄物埋設センターへの廃棄体受入れ状況

実績なし

### (2) 低レベル放射性廃棄物受入れ・埋設実績

		受入れ本数	埋設本数
平成 29 年 4 月から 平成 30 年 3 月末までの実績	1号埋設設備	0 本	0 本
	2号埋設設備	3,976 本	4,640 本

## 4. 高レベル放射性廃棄物管理事業

### (1) 返還ガラス固化体受入れ・管理実績

	受入れ本数	管理本数
平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月末までの合計	0 本	0 本

## 5. 再処理事業

### (1) 工事の進捗状況(平成 30 年 3 月末現在)

再処理施設本体工事進捗率 約 99%

### (2) アクティブ試験の進捗率(平成 30 年 3 月末現在)

総合進捗率 約 96%

### (3) 使用済燃料受入れ量、再処理量

		受 入 れ 量		再 処 理 量	
平成 29 年 4 月から 平成 30 年 3 月末までの実績	PWR	0 体	0 トン U	0 体	0 トン U
	BWR	0 体	0 トン U	0 体	0 トン U
平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月末までの合計		0 体	0 トン U	0 体	0 トン U

### (4) 「北陸電力株式会社志賀原子力発電所 2 号炉の原子炉建屋内に雨水が流入した事象に係る対応について(指示)」に係る再調査結果の提出

原子力規制委員会からの指示文書「北陸電力株式会社志賀原子力発電所 2 号炉の原子炉建屋内に雨水が流入した事象に係る対応について(指示)」(平成 28 年 11 月 16 日付)に基づき、再処理施設における建屋貫通部から建屋内部に水が浸入することを防ぐ措置の現況について、平成 29 年 1 月 24 日に原子力規制委員会に報告したが、当該報告に誤りがあることを確認し、原子力規制委員会から保安規定違反との判定を受けた(平成 29 年 11 月 15 日)。このため再発防止策を講じた上で再調査を行い、調査結果を平成 30 年 3 月 13 日、原子力規制委員会に提出した。

再調査の結果、200 箇所の貫通部について水の浸入を防ぐ措置が施されていないことを確認したが、これらの貫通部により水の影響を受ける可能性のある安全上重要な施設は無いと評価した。当該貫通部については、水の浸入を防ぐ措置を速やかに実施し、それまでの期間に

においては浸水への監視対策および応急措置を実施していく。

#### (5) 中央制御室空調換気系ダクト等の点検調査結果の提出

中国電力(株)島根原子力発電所 2 号機にて発生した中央制御室空調換気系ダクト腐食事象を踏まえ、原子力規制庁からの口頭指示「中央制御室空調換気系ダクト等の点検調査について(平成 29 年 1 月 18 日付)」に基づき、再処理施設における制御建屋中央制御室換気設備及び使用済燃料受入れ・貯蔵建屋制御室換気設備の外観点検調査を実施し、結果について取り纏め、平成 30 年 3 月 30 日、原子力規制庁に提出した。

点検調査の結果、再処理事業所における換気設備ダクトにおいては、腐食によって貫通した箇所は確認されず、機能・性能に影響を及ぼす異常がないことを確認した。

### 6. MOX 燃料加工事業

#### (1) 工事の進捗状況(平成 30 年 3 月末現在)

工事進捗率 約 11.8%

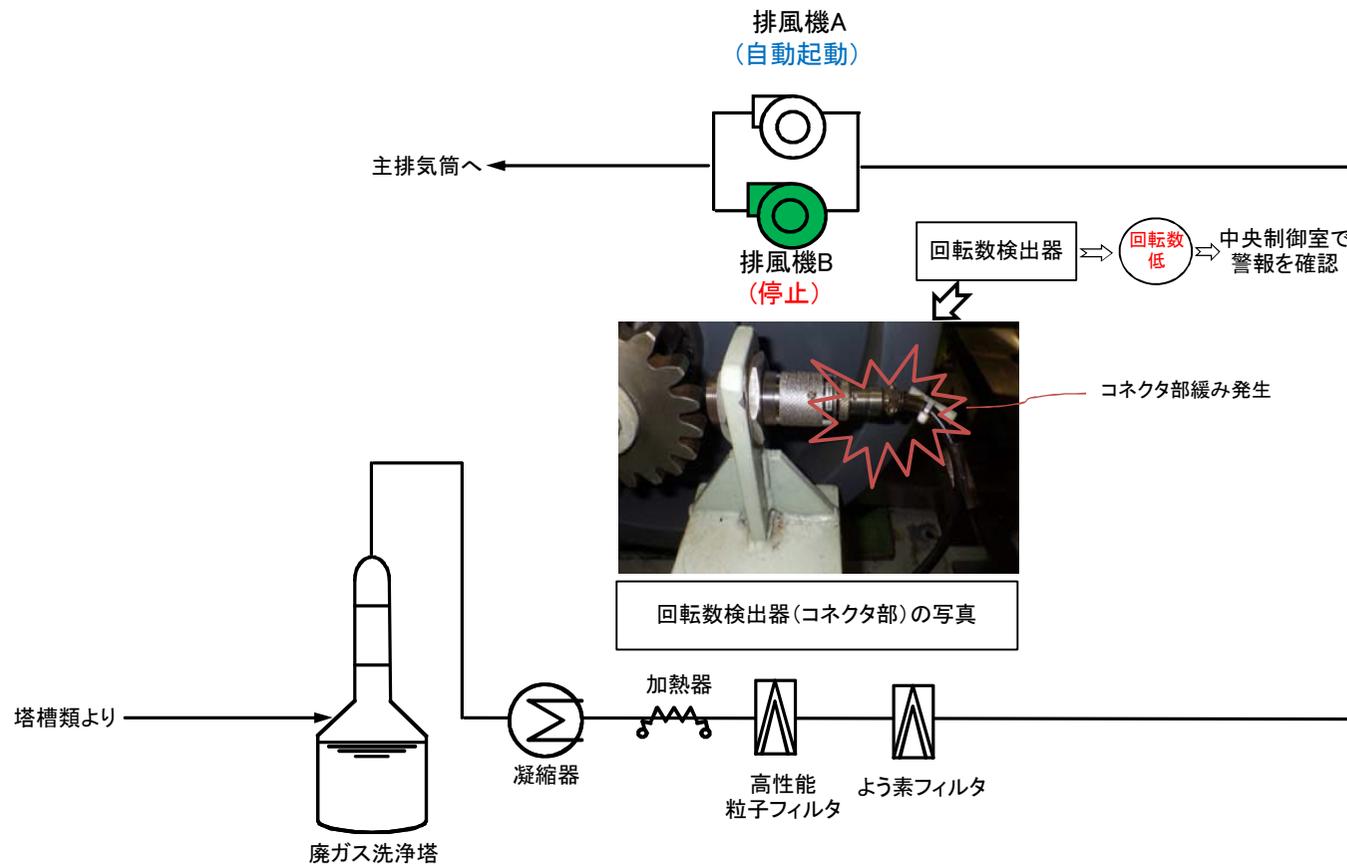
#### 7.トラブル等一覧

日時	場所	事象概要	原因	対応
H30.2.1	再処理事業所屋外貯蔵所敷地内西側(非管理区域)	ホイールローダにて除雪作業を行っていたところ、誤って軽油ドラム缶に接触させ、雪上に軽油が漏えいした。	除雪作業中にホイールローダのバケット部を軽油ドラム缶に接触させたこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>除雪作業を管理するルールを定める。</li> <li>軽油ドラム缶を安全に管理するため、平成 30 年度上期を目途に、屋内貯蔵所を新設する。</li> </ul>
H30.2.9	再処理事業所精製建屋塔槽類廃ガス処理系	運転中の排風機 A 系から B 系への切り替え作業を実施した際、警報が発報し、B 系の故障と判断。	回転数検出器ケーブルの接続コネクタ部の緩みと推測。(添付資料 1 参照)	接続コネクタ部の締め直しを行い、健全性を確認。原因究明を進め再発防止を検討中。

以上

「詳細については、当社ホームページから確認することができます。(http://www.infl.co.jp/)」





塔槽類排ガス処理系 概要図